



今でこそ、どんなスポーツでも筋トレや体幹の強化は重要視されている。が、今から40年ほど前はまだまだうさぎ跳びで階段を上り下りするような根性論が幅を利かせていた時代。そんなときに岡氏は「練習時間は短くていい。どれだけ質の高い練習ができるかが大事」と説いた。

同志社では寮生活を送った。下級生は電話番号、それも3回鳴る前に電話を受けなければいけないなど、先輩より早い行動が義務付けられていた。練習は高校時代とは比べものにならない激しさだった。

「入学時は95キロだった体重が2カ月で80キロまで減りました」

上下関係は厳しかったが、先輩と深夜まで宴会をしながら話すなど、ラグビー部のコミュニケーションそのものが楽しいと思える寮生活だった。

その時代、大学卒業後もラグビーを続けるには、社会人ラグビーのある企業への就職が必須だった。選んだのは神戸製鋼。今でこそ常勝チームと言わ

れるが、林さんが入社した頃は圧倒的に新日鉄釜石が強かった。入社後7年目、東芝府中との優勝戦を制して初優勝。ヒザの負傷からようやく一週間前に復帰してチームに合流した林さんは戦い抜いた。キャプテンを降りていた林さんに、表彰式の直前、キャプテンを務めた平尾誠二氏が言った。

「林さん、表彰式でカップを受け取るのは林さんしかない。みんな、いいだろう」と。

粋な計らいで優勝カップを受け取ったのは林さんだった。

神戸製鋼を初優勝に導いた後、英国オックスフォード大学の企業留学生に選ばれた。皇后雅子妃がまだ小和田雅子さんの頃のこと、学内で見かけたこともあるそうだ。

英国ではラグビー、ボート、クリケットが三大リスペクトスポーツ。林さんはケンブリッジ大学との試合にレギュラー出場した文武両道のラグーマンでなければもらえない「ブルー」の称号を持つている。

しかも、ラグビーのルーツともいわれるオックスフォード大学の歴代ラグーマンベスト15に日本人で初めて選ばれ